

A 保健福祉部長 平成23年度が19万6千206人、平成24年度が19万8千914人、平成25年度が19万7千931人と、ほぼ横ばい状況です。

Q 平成25年度と平成26年度の来院者数を比べるとどうか。

A 保健福祉部長 平成25年度と比較しますと1万8千305人減少しております。

Q 患者数の減少は何か原因があるのか。

A 保健福祉部長 特定はできませんが、常勤医師の退職によることや4月から消費税によります患者の受診行動の適正化が進んでいるものと思われま。

Q 診療科別の常勤医師数はどうなっているのか。

A 保健福祉部長 医師数の状況は、内科4名、外科6名、小児外科1名、小児科1名、産婦人科1名、整形外科6名、脳神経科2名、眼科1名、麻酔科1名、歯科口腔外



科1名の計24名です。

Q さんむ医療センター施設整備を行うに当たり、市長の任期中に用地の確保はできるのか。

A 市長 用地の確保を任期中にやるといってお約束すると、やめられなくなる可能性がありません。しっかりと用地の確保のため努力したいと思います。

Q 病院を存続させるといふことと、市民のお役に立てる病院にする。この2つの目的をしっかりと達成できるように目標を持って、この問題にあたりたいと思っております。

Q 次期財政計画の主要な目的は何か。

A 市長 一般会計において、合併算定代替例の終了などにより交付税が削減されることを見据え、持続可能な身の予算を実現することです。

Q 合併特例措置の終了により山武市の普通地方交付税は今後減る。平成27年度は65億円を予定しているが、それと比べてどの程度減るのか。

A 総務部長 5年間で約20億円から21億円程度が減額になると推測しています。最終年度を迎えた次の年度からは、約6億円程度減額されま



個人質問

藤 眞 議員

Q 現在の財政規模を190億円ぐらいいまでスリム化する見通しはどうか。

A 総務部長 何年度までということは非常に難しいです。合併の算定代替の特例が終わる次年度からは約6億円の財源不足になり、財政調整基金を財源不足に充てる期間がある程度想定されま

Q 財政計画の一番大事なところは、いつまでに身の丈財政にするのかという点だが、検討していないのか。

A 総務部長 新市建設といったことも目標に入れている必要があると考えています。

Q 市の主要な基金の合計が、平成27年度末見込みで143億円で、そのうち財政調整基金が70億円ある。財源不足を補填すれば財政調整基金はほとんどなくなるといいますが、10年後の推計はど

うか。

A 総務部長 10年後の財政調整基金の推計はなかなか難しいわけですが、現在の財政調整基金70億円は、何もしないと枯渇すると思っております。

Q 肝心なことがはっきりしない。身の丈予算にするために、いつまでにどうしてやっつけていかという道筋がもっとも見えてこない。早くしっかりと道筋をつけるべきだ。

A また、財政調整基金以外の地域振興基金、減債基金、庁舎建設基金、福祉基金、公共施設整備基金等々の70億円の活用計画はないと思われる。例えば、財政調整基金を除いても70億円ある。その一部を使い、周辺の市町ではやっていない積極的な施策をどんどん実施すべきではないか。

A 市長 将来の見通しをしっかりと立てる中で、最大限積極的な施策を打つようという提

言だと思えます。財政調整基金をはじめとする基金の有効活用については、市の将来が持続可能なものであり、私たちがこれを後に続く者に引き継いでいかなければなりません。財政面でも健全な形でお渡しをする義務もありますので、安心安全で暮らせる地域を作りながら、財政においても破綻の心配がないような形で引き継いでいくという、この2つの目的をバランスよく実現していきたいと思えます。

Q さんむ医療センターは、第2期中期計画で、医療・保健・介護を三位一体で提供することを目的として設定し、そのために必要な施設整備と移転を検討するとした。それに対応して、さんむ医療センター施設整

さんむ医療センター
について